日本工業大学
専門職大学院

働きながら1年で修士号

知の、閃き。

知の、冒険へ。

日本工業大学 専門職大学院は、中堅・中小企業の経営にフォーカスした、学びの総合拠点です。社会人のリスキリングに注目が集まり、ますます実践的な教育の価値が重視されるなか、実際の業務に役立つ独自のカリキュラムを発信。技術系企業のみならず、IT・情報サービス、大手企業、政府系機関のビジネスパーソンをも引きつける濃密なネットワークを形成しています。

大学、大学院を通じて実践的な技術者人材を輩出している日本工業大学の、総仕上げともいえる学びの場が日本工大MOT。卓越した技術を、製品を、そして経営手法を、強力に発信していきたい。

日本工業大学 学長

竹内 貞雄

中小企業にフォーカスしたMOTは国内唯一。中小企業の制約をその特徴で打破するのがSMEスピリッツ※。その発信もあり、企業規模や技術バックグラウンドの有無を問わず、意欲ある多くの皆さんが学んでいる。 ※Small Medium Enterprise

日本工業大学 大学院
技術経営研究科 研究科長

清水 弘

知の、泉。

モノからコトへのシフト、グローバル化×デジタル化、SDGsやESGの動きなど環境変化はますます加速しています。日本工大MOTは、中堅・中小企業の経営課題に対応するため、つねに学びの強化・充実を追求しています。

日本工大MOT 5つの特長

中堅・中小企業の技術経営人材を育成　～我が国で唯一～

キャリアアップを目指すビジネスパーソンを対象に、技術経営人材の育成を目指したコース、カリキュラムを用意しています。中堅・中小企業に焦点を絞った専門職大学院は我が国で唯一のもの。中小企業経営的視点からのマネジメントが役立つことから、中堅・中小企業に限らず、大手企業、独立行政法人など多くの企業、組織の在職者も学んでいます。

働きながら1年間で修士号取得＆5年間MOTの継続学習も可能

多忙な社会人が働きながら学べるように、講義は平日夜間と土曜日に行います。科目等履修生制度（奨学金給付制度あり）を活用すれば、入学前の1年間、入学して院生として1年間、修士号取得後も修了生として3年間、の最長5年間MOTを学ぶ機会が得られます。その後も、MOT倶楽部に参加して、さまざまな新しい知識、考え方の学習、研究を継続することもできます。

実務に役立つ高度な実践的専門知識が習得可能

実例やケーススタディを重視する授業では、実務問題解決型指導、魅力的なゲストスピーカー（現役経営者など）の招聘などによって実践的な知識を身につけることができます。授業におけるグループ演習や相補的啓発を意識した活発な議論は、実践力やコミュニケーション力を養うばかりでなく、「技術経営に関する価値観の共有化」を進め、院生同士や教員との繋がりを深める役割も果たしています。

豊富な経験の実務家教授と濃密な学びを実現

実践的な経験と知識、ノウハウを持つ実務家を中心とする10人以上の専任教授と、30人を超える客員教授の配置により、濃密な学びを実現。経営者や実践者として多様な経験を積んできた教員による授業内容は、体系的理論だけではなく、今日から使える実践的な知見を網羅しています。また特定課題研究(修士論文)は、実際の企業や組織、起業における課題などをテーマとして、3名の教授と一緒に創りあげていく実践的な成果となります。

異業種・異職種の学ぶ「志」の強い方との人脈形成

院生は多様な業種・職種、学歴・経歴、年齢層からなり、同期生間の交流がそのまま世代・異業種・異職種交流になり、通常の大学院や授業だけでは得られない発想や意見交換ができます。大学卒業後5年以上の実務経験を有する人を対象にしていますが、非大卒者でも、短大・高専卒は7年以上、高卒は9年以上の実務経験があり、十分な知識と実績を有する人は資格認定審査を受けて認定されれば出願することができます。

技術経営（MOT：Management of Technology）とは、一言でいえば「技術を活かした経営」です。すなわち「技術に立脚する事業を行う企業・組織が、持続的発展のために、技術が持つ可能性を見極めて事業に結びつけ、経済的価値を創出していく経営」です。

日本工大MOTの 歩み

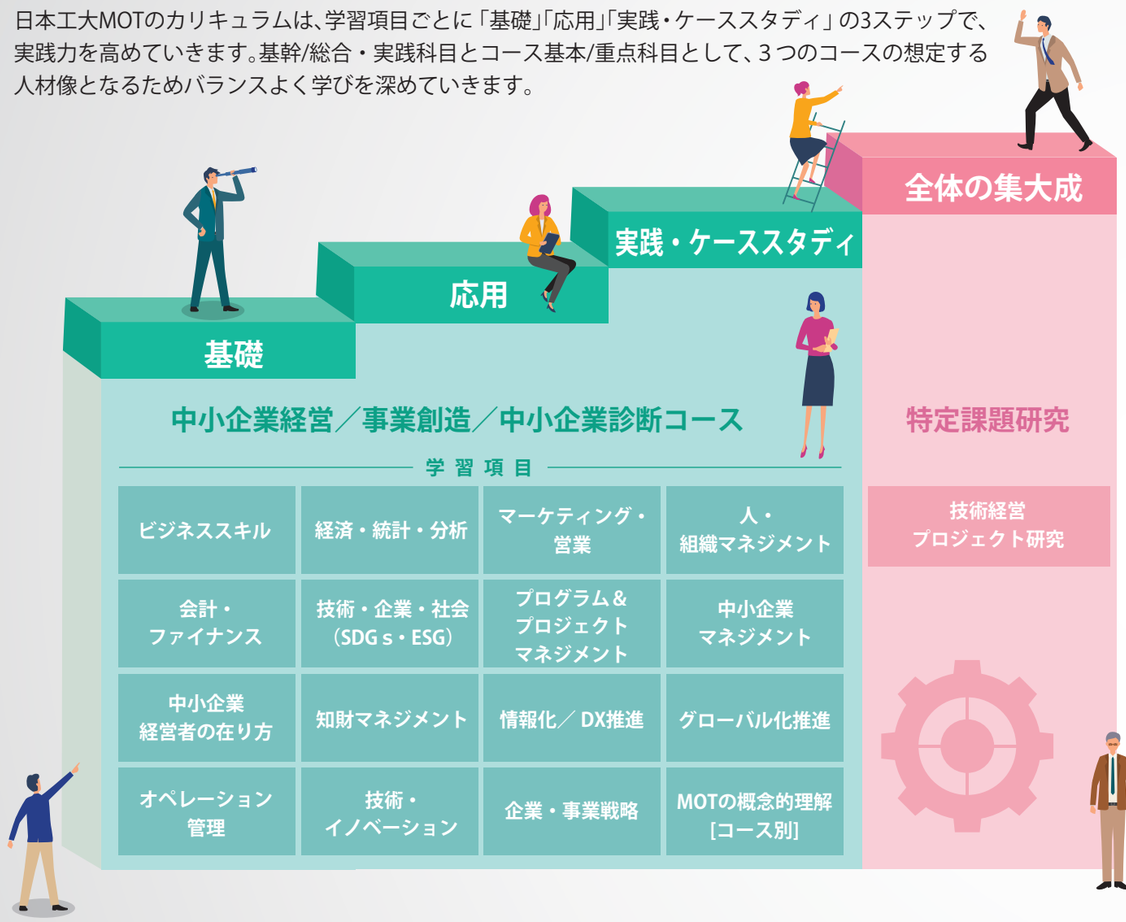
2005	日本工業大学専門職大学院（MOT）開設
2007	「中小企業技術経営実践講座Ⅰ」（工学図書）を出版
2009	・シンポジウムを開始 ・科目等履修生制度の導入 ・MOT大賞を開始
2010	・大学基準協会の経営系専門職大学院基準に適合認定 ・セミナーを開始
2011	日本工大MOT奨学金制度の導入
2013	・グローバル化、事業承継などの分野の科目充実 ・日本工大MOT倶楽部を開始
2014	新カリキュラムを策定・実施
2015	・日本工大MOT 10周年　修了生300人超 ・大学基準協会の経営系専門職大学院基準に適合認定 ・「中小企業技術経営実践講座Ⅱ」（白桃書房）を出版
2016	・「ケーススタディで学ぶ起業と第二創業」（クロスメディア・パブリッシング）を出版 ・ビジネスフェア from TAMA（西武信金主催）に出展 ・IoTセミナーの実施
2017	・彩の国ビジネスアリーナ（埼玉県産業振興公社等主催）に出展 ・SME（Small Medium Enterprise）セミナーの実施
2018	中小企業診断コースの開設
2020	・大学基準協会の経営系専門職大学院基準に適合認定（2020年4月1日～2025年3月31日） ・メンター制度の導入 ・オンライン授業の導入
2021	複合授業（対面＆オンライン）の導入
2022	・コースの見直しとカリキュラムの向上 中小企業イノベーションセンターの設立

知が、肉となる。

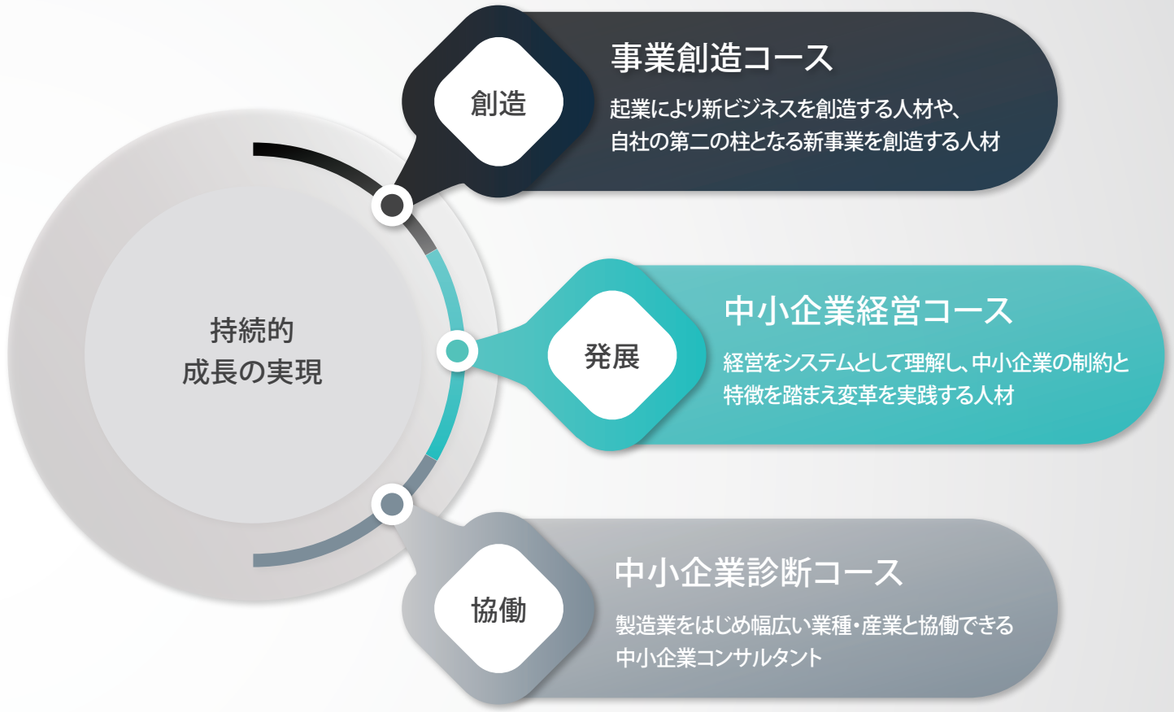
日本工大 MOT では発足以来、経済環境の変化と中堅・中小企業が抱える課題とを見据えつつ、院生が必要とするスキルを満たすため、つねにカリキュラムとコース編成の充実に取り組んでいます。

カリキュラム 日本工大MOTの学びの分野

日本工大MOTのカリキュラムは、学習項目ごとに「基礎」「応用」「実践・ケーススタディ」の3ステップで、実践力を高めていきます。基幹/総合・実践科目とコース基本/重点科目として、3つのコースの想定する人材像となるためバランスよく学びを深めていきます。



日本工大MOT 3つのコース



事業創造コース

起業や従来事業に代わる第二の柱となる新事業創造を実現するために、自己実現をベースにした経営理念・目標、中長期ビジョンを持ち、その実現のための戦略・戦術を立案します。更に、立案した戦略・戦術を実行するために、外部資源を活用できるネットワーク力も持つイノベーター、アントレプレナー人材を育成します。

中小企業経営コース

技術経営の両輪とも言える「プロセス・組織を通じて経営資源を活かして戦略を実現する組織経営」と「アイデアを経済的価値とする価値創出活動」を基本に、中堅・中小企業の制約を理解しながらその特徴を活かす技術経営を実践するビジネスリーダー人材を育成します。

中小企業診断コース

診断先中小企業の経営全体を見渡し、外部環境の変化が企業経営に及ぼす影響を踏まえ、その経営戦略と経営計画を立案します。加えて、コミュニケーション力により対象とする中小企業の改革すべき方向性について、その中小企業とともに検討し実行支援できる企業経営コンサルタントを育成します。

＼ 修了生の声 ／

山代佳子さん
（第11期生）
totoka<トトカ>代表

多様な院生と学ぶ実践的なカリキュラム

日本工大MOTのカリキュラムは「多様性」と「実践」が強みです。
同期生は、20代~70代までと幅広く、スペシャリストや経営者、中小企業から大企業とまさに多様な人材の集まりでした。授業では、まず基礎をしっかり学び、座学だけではなくゲストスピーカーによる実体験を議題にしたグループディスカッションが度々行われました。各人の異なる視点から、目から鱗のアイデアが生まれることもあり、多様性によるイノベーションを実感すると共に、これまでの考え方がいかに凝り固まったものだったかを知るきっかけとなりました。また、学ぶだけではなく、学んだことを活用・実践することが大切であり、実践する具体的な方法についても丁寧に教えていただきました。
多様な視点と実践的なアプローチについて学んだことは、私の一生の財産となり、現在の経営に大いに役立っています。

知が、騒ぐ。

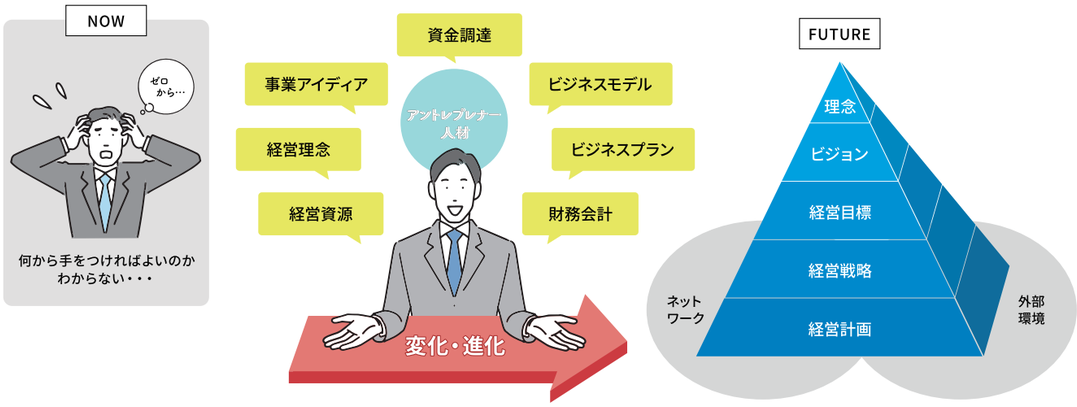
日本工大 MOT の中核となる 3 つのコースを説明します。新規事業や起業のためのイノベーター、アントレプレナーを育成する「事業創造コース」、企業の成長、利益拡大のために技術、イノベーションを活かした経営人材を育成する「中小企業経営コース」、そして中小企業が抱える経営課題を解決する人材を育成する「中小企業診断コース」です。

事業創造コース

期待される効果

本コースでは、起業や新事業を成功させることができる人材となるために、以下に挙げる力を身につけることを目指します。

経営理念、経営目標、経営計画を策定できる力	経営目標を実現するための戦略、戦術を立案できる力	戦略、戦術を実現するための実行力	外部資源を活用できるネットワーク力



お勧めする対象者

- 起業を目指している方
- 既存事業とは違う新たな事業の立ち上げを目指している方（経営者・後継者、新事業担当者など）
- 既存事業で海外進出を目指している方
- 経営計画や事業計画を作成したい方（経営者・後継者、経営企画担当者、起業コンサルタントなど）

得られる知識・スキル

- 新事業創造のための基礎知識と思考法
- 新事業創造に必要なシーズ（社内資源）とニーズ（市場の潜在的要求や社会の諸課題）をマッチングさせるスキルや思考力
- 起業家や経営者の漠然とした思いや抽象的なアイデアから、具体的な経営目標や事業計画を作り上げるスキル
- 外部資源を活用するための実践的知識とネットワーク形成スキル
- 新事業創造に立ち向かうための熱意、志、勇気、行動力、人的ネットワーク

中小企業経営コース

期待される効果

誰もが企業の中で担当者としての実践のみならず、チーム・組織活動の推進、さらに組織の経営全体にも関わり活動しております。個人の気づきから様々なイノベーションが生まれる現在では「アイデアを経済的価値とする価値創出活動」はとても重要です。ただその活動には「ヒト・モノ・カネ」といった経営資源が必要で、「戦略を描きプロセス・組織を通じ経営資源を育成配置して戦略を実現する組織経営」も重要です。この２つは技術経営の基本の活動と言えます。中小企業の特徴を理解しながら、この２つの基本の活動で技術経営を実践できる人材を目指します。

お勧めする対象者

- 技術・イノベーションを活かし、柔よく剛を制す経営に関心のある経営者・経営幹部、チーム・組織リーダー
- 経営全体を理解しながら今後の自分の役割を考えたい担当者（製造業・IT企業・サービス業など）

得られる知識・スキル

- 技術とイノベーションマネジメントの体系的知識（技術・イノベーションを活かした価値創出）
- 組織経営の体系的知識（戦略・プロセス・組織・技術/経営資源の経営要素、組織経営Plan-Do-See）
- 日本的中小企業の特徴と柔よく剛を制す経営の考え方
- 価値創出と組織経営を担うリーダーの基本スキル
- イノベーティブなアイデアの発想と具体化の手法
- 先進中小企業の実践事例と自社現状とのギャップの解消方法

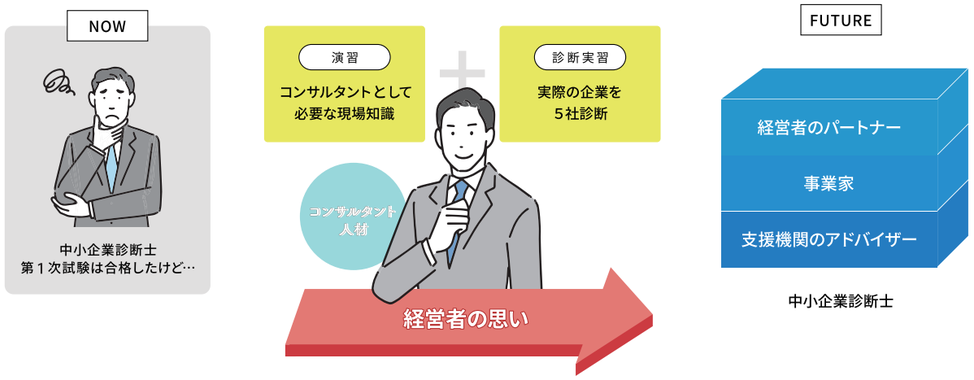
知の、収穫。

修士論文としてゼミで取り組む、特定課題研究。個々に希望する課題解決に取り組む研究を深め、自社・自分のビジネスにフィードバックしています。

中小企業診断コース

期待される効果

診断先中小企業者の組織・人事管理、財務・管理会計、企画開発、生産管理・業務プロセス管理、マーケティング活動等々を把握し、経営全体を見渡すことができるようになります。さらに、外部環境の変化が企業経営に及ぼすマイナス面やプラス面を踏まえ、経営戦略と経営計画を立案するスキルを獲得。加えて、コミュニケーション力を身につけ、対象とする中小企業者の改革すべき方向性についてその中小企業者とともに検討できるようにもなります。



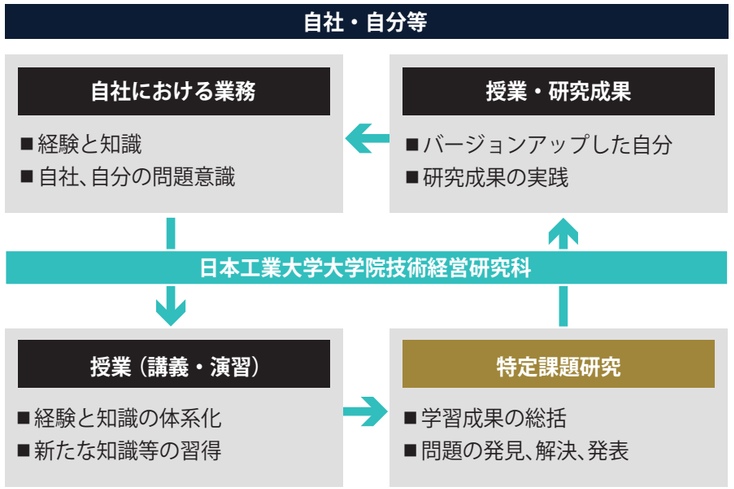
お勧めする対象者

- 数年後までには中小企業診断士として独立し、中小企業者の支援活動に従事する方
- 主に中小企業者を対象に現在コンサルティング会社に勤務している方、または転職してコンサルティング会社に勤務する方
- 自治体や中小企業支援機関などに勤務されており、業務の中で中小企業者支援に携わっている方、あるいはその予定の方
- 現在中小企業の経営者や経営幹部の方で、自社の経営改革や、地域の中小企業者とともに地域の発展に向けた活動を推進しようとしている方
- 取引先に中小企業者が多く、取引先の支援活動を業務の中に組み込んでいる方、またはこれから組み込む計画の方（地域金融機関勤務の方。多くの中小代理店やフランチャイジーを組織している会社勤務の方。多くの中小企業者をネットワーク化している事業活動を推進している会社勤務の方。）

得られる知識・スキル

- 診断先中小企業の現状把握に基づき、課題の抽出とその克服策の立案ができるようになる。
- コミュニケーション力を醸成し、中小企業経営者や従業員との意見交換がスムーズに行えるようになる。
- 診断先中小企業者が自社以外の企業とのネットワークを構築し、新しい事業システムの構築に向けた具体的な活動を推進するような支援活動ができるようになる。
- 中小企業支援施策を経営活動に取り入れる方法を修得するとともに、関連する補助金などの申請ができるようになる。

特定課題研究



一人ひとりの経験・知識は授業を通して体系化され、多様な角度から検証されていきます。さらに、秋学期(10月~)・冬学期(2月~)の6ヵ月間にわたり、修士論文に相当する「特定課題研究」において学習成果を総括し、個々の課題解決に取り組みます。そのなかで、自社・自分の飛躍、ビジネスへのフィードバックが図られています。

ゼミでの修士論文

特定課題研究は一般にいわれている修士論文にあたるもので、院生としての一年を通じた学習成果の集大成の場として位置付けられています。

10人以上の専任教授と協働

専任教授から主査1名、副査2名を選んで、特定課題研究に取り組みます。自分の取り組みたいテーマから教授を選ぶことができます。

研究テーマは自由

属している組織の経営課題、起業テーマ、社会的な課題など、研究テーマは自主性を持って設定することができます。

他のゼミとも交流して切磋琢磨

ゼミはグループ、個人で実施します。それに加えて、ゼミ合宿や他のゼミと合同で研究発表会を行ったりして、お互いに学びを深めます。

知が、通う。

多忙な社会人に短期間で専門的知識を習得していただき、変化の早い企業経営や情報技術の流れや、短期化しつつある企業プロジェクトのサイクルに対応するため、1年間で習得できるようになっています。

履修プラン

修業年限1年制

効果的かつ集中に学習することにより、最低30単位の科目履修および特定課題研究4単位を履修し、修了に必要とされる34単位を修得できるようになっています。

コース設定

技術経営系の「中小企業経営コース」、「事業創造コース」と、中小企業診断士第1次試験合格者を対象とした「中小企業診断コース」が設定されています。各自の所属コースは、出願時の希望に応じて入学時に決定されます。

1年4学期制

春、夏、秋、冬の4学期制です。各学期の期間は以下の通りです。

春学期	夏学期	秋学期	冬学期
（4月～7月）	（8月～9月）	（10月～1月）	（2月～3月）
15週間の授業	6週間の授業と夏季休業	15週間の授業と年末年始休業	6週間の授業

注）中小企業診断コースは、上記の期間と異なる場合があります。

授業科目

授業科目には、基幹/総合・実践科目とコース基本/重点科目（それぞれ「基礎」、「応用」、「実践・ケーススタディ」の三段階に区別される）と、特定課題研究があります。

修了要件

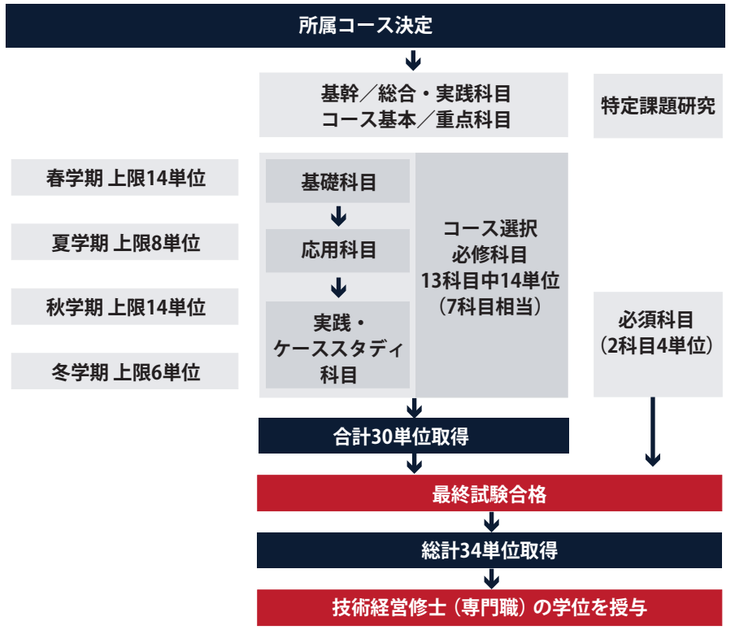
以下の（1）、（2）、（3）で合計30単位以上と特定課題研究（必須）4単位の総計34単位以上を修得した上で、最終試験の合格をもって技術経営修士（専門職）の学位を授与します。
（1）コース選択必修対象科目13科目中、14単位（7科目相当）を取得
（2）コース選択必修対象科目において必要な単位を含め30単位以上を取得
（3）技術経営プロジェクト研究（特定課題研究）Ⅰ・Ⅱに合格
注）中小企業診断コースは、同コースの演習科目はすべて必修です。

中小企業経営コース・事業創造コース

1コマ90分間の授業を15回受講し、所定の試験を受け、またはレポートを提出して合格すると2単位を修得できます。（1単位科目の授業回数は8回となります。）
注）「コマ」とは、授業の1ユニットのことを指します。

中小企業診断コース

1コマ90分間の授業を所定回受講し、所定の試験を受け、またはレポートを提出して合格すると2単位を修得できます。



授業時間帯

月～金曜日							1時限	2時限
							18：30～20：00	20：10～21：40
土曜日	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限		
	9：30～11：00	11：10～12：40	13：30～15：00	15：10～16：40	16：50～18：20	18：30～20：00		

知を、分ける。

日本工大MOTの授業の質を評価するのは、ほかの誰でもなく修了生の皆さんです。企業であればCS―顧客満足度というべき修了生の満足度を、日本工大MOTはなにより重要視しています。

修了生の声 VOICE

ものづくりから

中小企業経営のリアルな姿を学べる

大手鉄鋼メーカーから中小企業に転職することを決意した際に「中小企業のこと」を学ぶ必要を感じ、適当な社会人大学を探しました。日本工大MOTは『中小企業技術経営』にフォーカスしており、科目名を見た瞬間「これは！」と直感的な閃きがありました。企業人にとって、1年間で短期集中して学べること、少人数の特性を活かして実務経験が豊かな教授陣と深く接することができる魅力と、学生の年齢層が幅広いことも安心材料となりました。

自らの血となり肉となる知識を得る１年間

『中小企業技術経営』という漠然とした概念の具体化、思考の現実化をすることができました。合わせてテクニカルな知識だけでなく、『志』や『自らの目指すものとそのアプローチ』といった『人として大事なこと』を学ぶことができました。会社経営（ヒト・モノ・カネ・技術・情報）での悩みはここで学んでいなければ、乗り越えられなかったものがたくさんあるとも感じています。1年間で終わってしまうことが残念に思えるほど、知識欲が満たされる濃密な毎日でした。

富田 一臣さん
第15期生
探傷装置製造メーカ 経営

IT企業から

実践形式の知識・スキル習得

会社が次期ビジョンを考え始める中で役職が変わり、自分のアウトプットを変えていく必要性を感じていました。今までの職場の経験だけではインプットが不足していると考え、知識とスキルを体系的に身に着けたいと進学を決めました。本大学院では、実務経験のある教授陣・他業種の同期生からのインプットに、各授業でのグループワークや自社を対象にした課題のアウトプットも多く、短期間に実践形式で学ぶことができました。

経営者視点で現場から変革を

これまで一社員という視点から会社や仕事を捉えていましたが、経営者の視点、同期生である他業種の方々の視点を得たことは、私の中で大きな変化でした。課題を認識しながらも目の前の仕事に追われていた日々から、あるべき姿と目的のために自分の行動を変え、周りを巻き込んでくようになりました。修了はゴールではなくスタートだと思っています。これからも継続的に学び、実践し、現場から変えていく力に変えたいと考えています。

越野 曜さん
第15期生
ソフトウェア開発

サービス業から

現場で培った経験を俯瞰的に捉えるために

これまで事業会社での勤務、スタートアップの起業、独立して自身の会社の立ち上げなどいろいろな経験を通して営業、マーケティング、経営と知見を積み重ねてきましたが、現場での仕事で積み重ねた感性と経験値だけではなく、もっと俯瞰的に経営全般の学びを得たいと思い、大学院への進学を選択しました。これまであまり接点のなかった製造業などのビジネスプロセスを理解することで視野を広げたいと思い、MOTを選択しました。

多様な価値観と親身な教授陣

さまざまな業種・立場の同期が集まり、1年間で多様な価値観に触れることができました。また、ゼミは少人数制のため、先生とじっくりディスカッションさせていただくことができ、毎回新たな発見があり、自分の強みを再認識したり、苦手な部分をしっかりと理解し、克服できるようにもなりました。一人ひとりに学校全体で寄り添ってくださり、凝縮された1年間で、今後の働き方につながる学びはもちろん、ずっと付き合っていきたい仲間にも恵まれました。

小笹 文さん
第17期生
合同会社カラフル 代表社員

金融から

MOTの講義に集まる素晴らしい学友

信用金庫に勤務し、10年近く前からコンサルティング業務に従事しています。私の職場には毎月500件近くの経営相談が寄せられますが、業種は様々で内容も多岐に及んでいます。これらの相談に少しでも高い確度でお答えし、相談者の方により高い満足を感じていただくために、MOTで学びなおすことを決めました。学友となった15人はそれぞれが何かしらの専門知識をもつメンバーでした。受講を通じて学友と各自のノウハウの共有をできたことも貴重な経験です。新たな生涯の友を得ることができました。

実務経験が豊富で頼りになる講師陣と、元気がもらえる優しい職員の皆さん

MOTの講師陣は専門分野の研究者の方や、コンサルタントとして実務経験が豊富な方ばかりで、卒業後に実際に使えるメソッドを数多く与えてくださいました。私の通学スタイルは、本職の通常勤務と平日夜間・週末の通学だったので、常に睡眠不足の1年間でしたが、職員の皆さんの細やかな気遣いは大変ありがたいものでした。MOTに通った1年で、人生が豊かになったと実感しています。

林 康明さん
第16期生
信用金庫勤務

知の、繋がり。

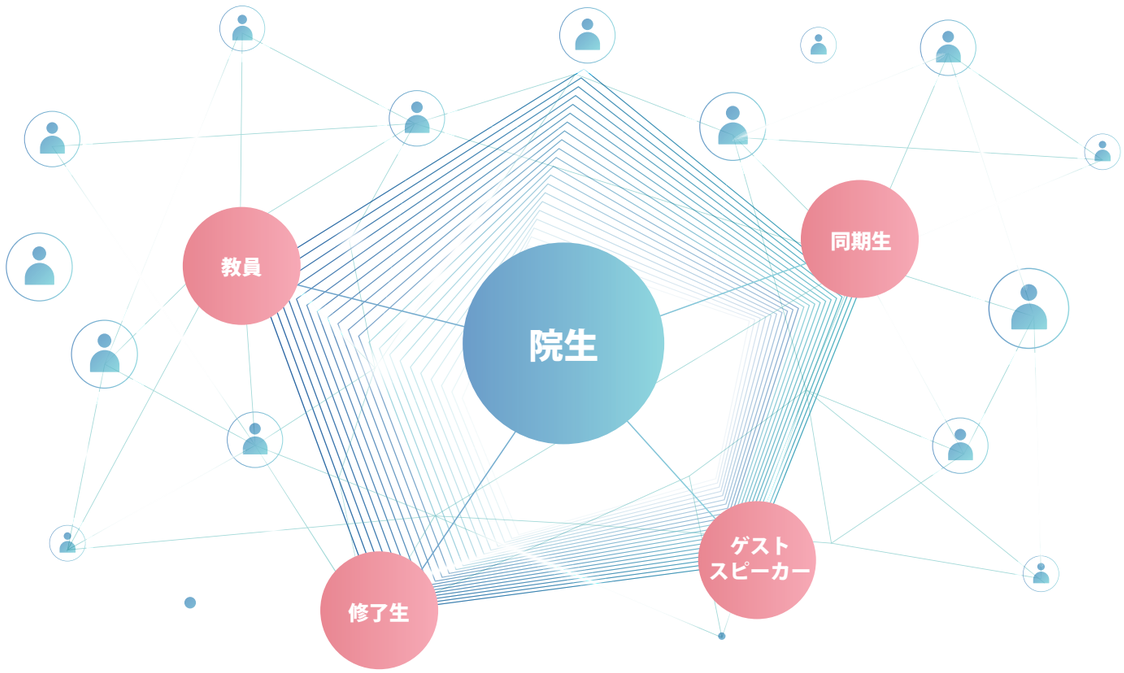
修了生が交流する場としての同窓会、自己研鑽の場としてのMOT倶楽部の、２つの組織が活動を行っています。また、在学中に限らず、修了後も継続的に学ぶことを推奨しており、その機会として修了生優待聴講制度を設けています。

MOT人脈

人脈は宝！修了後もさまざまな「繋がり」を持てる。

修了生が学び合う日本工大MOT倶楽部

MOT倶楽部では、修了生、教員や外部専門家が講師となり注目領域や関心のある内容について講演・話題提供し、参加者がディスカッションを行う勉強会や見学会を開催しています。修了生と教員中心の会のほか、外部に公開している会もあります。このように、修了後もさまざまな「繋がり」を持てる機会を設定しています。
MOT倶楽部からは、各種の研究会や勉強会などのイベント案内が届きます。同期生の「ヨコ」の繋がりだけでなく、先輩・後輩修了生との「タテ」の繋がりの機会も多く設けられています。



中小企業イノベーションセンター

本研究科修了生などのビジネスイノベーションを支援する組織です。とくに、修了生の多様性を活かした相互連携による新技術・新製品の開発や新事業・新業態の創造、コンサルティング能力向上等のエコシステム形成にもつながる支援事業を行います。

学び続ける姿勢を支援する制度

修了生優待聴講制度

修了生優待聴講制度とは、修了生が、在学時には1年制の制約から受講できなかった科目、もしくは、修了後に新設された科目に限り、期間、科目数の一定条件のもとで聴講（無償）することを可能とする制度です。

目的・利点

- 修了生の修了後の継続的な勉学を支援し、MOTノウハウの一層の強化、拡大をはかる。
- 修了生の聴講が増えることにより、年次の異なる修了生、在学生相互の交流が促進される。

受講規程

- 受講できる科目：申請時までに単位を取得していない科目（修了後新設された科目を含む）
- 受講できる期間・科目数：修了後3年以内、累計5科目までとする。
- 2単位（15コマ）科目も1単位（8コマ）科目も、1科目としてカウントする。
- 聴講科目となるので、単位取得、成績評価はなしとする。

科目等履修生制度

日本工大MOTの特長である1年制は、忙しい社会人にとっては大きなメリットではあります。しかしその半面、多忙なために1年間継続しての通学が困難であるとのご意見もあります。そこで、「もう少し余裕を持って修学できないか」など、多忙な社会人のご要望に応え、科目等履修生として入学前に履修を開始することで、1年制の枠にとらわれず、余裕を持って学ぶことを可能にしました。

対　象

科目等履修生とは、非正規生として、日本工大MOTにおいて単位の修得を目的とし、科目を履修する者をいいます。次のような方が科目等履修生として学んでいます。

- 多忙なため、1年間の修学期間での修了が不安で、入学後の単位修得に余裕を持ちたい方（入学後の単位として認められます）
- 入学後も多くの科目を履修されたい方
- 入学を前提として、入学前に体験的に履修されたい方
- 特定の科目のみを学びたい方

特　長

- 正規課程の入学に先立ち、入学前から履修を開始できます。
- 正規課程の1年間に比べ、長い期間で余裕を持って学ぶことができます。
- 科目等履修生として入学前に修得した単位は、本学の承認を経て最大15単位まで入学後の単位として認められます。
- 履修チャレンジ制度を併用することで、1科目に限り無料で履修することができます。

履修チャレンジ制度

日本工大MOTにご興味がある方に対し、本大学院の授業を実際に院生の立場で体験していただくことを目的に、１科目に限って無料で受講できるのが「履修チャレンジ制度」です。「授業見学」だけでは得られない、授業の魅力を体験、認識してください。

要　件

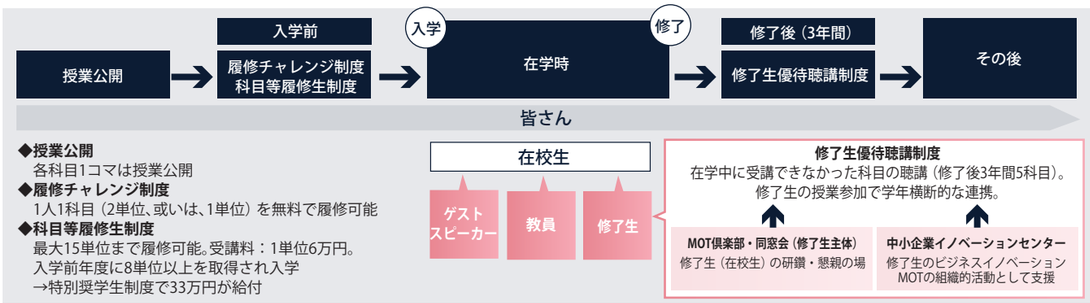
1.社会人大学院、日本工大MOTに興味を持っている人
2.本大学院院生の立場で真摯に学んでみたい人
3.原則（やむを得ない場合を除く）として、１単位科目の場合は全８回、２単位科目の場合は全15回出席可能な人
4.実務経験（アルバイトを除く正社員、派遣社員等）５年以上の人（年齢条件なし）

特典内容

1.１人１科目に限り、無料（検定料、登録料、授業料無し）で履修できます。
※授業における教科書はなく、オリジナルの教材を無料で配布します。ただし、科目によって有料教材を利用する場合においてのみ、個人にてご負担いただきます。

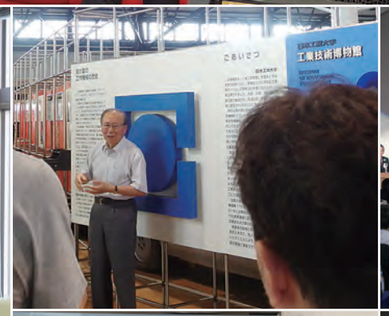
2.履修終了後に、履修された科目に対して、定められている評価方法に基づき評価し、その成績を受講者へ通知いたします。一定の評価を得た場合には単位を付与します。
※評価方法については、ホームページ上の各科目のシラバスに記載します。

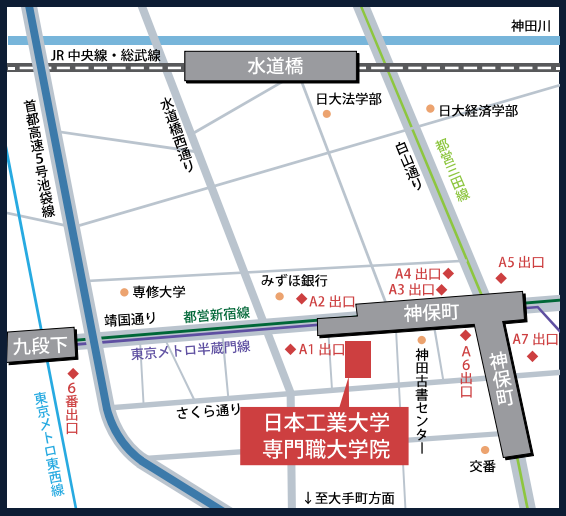
3.付与された単位は、その後に本大学院へ入学された場合に取得単位として認定されます。
※本制度にて付与された単位を含め最低8単位履修（科目等履修生制度にて履修）した上で入学した場合には、入学者に特別奨学生として33万円の奨学金が給付されます。



知の、利。

日本工大MOTのキャンパスがあるのは都心の神田神保町。地下鉄神保町駅から徒歩1分、JR御茶ノ水駅から10分という、通学に便利な場所です。東京駅からも電車で10分であり、周辺地域からのアクセスもスムーズ、新幹線利用での通学も可能です。
神田キャンパスにおいては、今日も院生や教員の交流や意見交換が繰り広げられています。





終業後も間に合う、神保町駅徒歩1分

日本工業大学

日本工業大学 専門職大学院

〒101-0051　東京都千代田区神田神保町2-5 TEL. 03-3511-7591

https://mot.nit.ac.jp